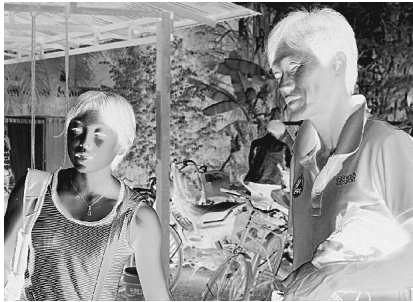
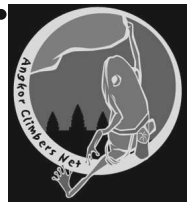


モイモイのモイ

(一歩一歩のたった一歩)



ワークショップにやってきた小田桃花さんと原文男コーチ



ACN-YOUTHと記念撮影。セイハ、チェニ、ティビラがいる。みんなこのあとフェイスブックの友達になったそうだ。

小田桃花さんが
アンコールに
やってきた♪

話がまた前後して恐縮だが、昨年2013年11月に山口県出身の世界的な女性クライマー、小田桃花さんが、シエムリアップで僕らが開催していたワークショップに参加した。事前にもらったメールにはヨーロッパ遠征の帰路に寄りたいと書いてあった。正直に言えば桃花さん

目指せ、 アンコールクライマー誕生!!

と聞いてすぐにピンとくるほど、僕はじつはコンペに詳しくない。カンボジアでは大きな成り行きに乗って、コンペをユースの柱に持つてはきたが、僕のバイブルは今でもダグ・スコットの「ビッグウォール・クライミング」だ。早速、ネットやひとを頼りに桃花さんのプロフィールをチェックすると、僕は半ば腰を抜かすような状態になった。2010年にウォールをここでオープンしたとき、ユージを呼ぶのが究極の夢

だった。桃花さんの訪問も、じつは同じ線上の夢ではないか。しかも彼女は自らの意志でやってくる。

桃花さんは、昨年のワールドカップで、日本の女子として初めて優勝を果たした。わずか2日とはいえその彼女がアンコール・クライマーズ・ネット(CAN)の子供たちとクライミングをしたいと言ってきたのだ。僕は土日を含むようにコメントを入れて返信した。この連載中にも何度か書いたが、カンボジアにはまだ、休日以外にスポーツを楽しむといった生活パターンが生まれていない。ウィークデイでは、子供たちとは登れない。

そしてスムロンに連絡をとった。「ハロー。ワークショップのラウンド6に小田桃花さんを招待したいけど、OK?」「誰?」「小田桃花、ミス・モモカ・オダ、去年のワールドカップの優勝者。19歳の女性だ」「オーマイガッド!」「大丈夫か? 桃花を歓迎してください」「了解、心配ない」

当日、僕は東京・調布の自宅にいてスカイプを立ち上げ、スムロンといつでも話せるようにスタンバっていた。しかしスムロンは、夕方になってもパソコンの前に現れない。結局来なかったのだろうか。夕方遅く、写真を頼んでいた日本人スタッフのひとりから電話が来て写真撮影が無事終了したと知らされた。彼の報告では、スムロンは桃花さんに登ってもらうため、その日に予定していた「キッズ・ワークショップ」の子供たちを、追い払うように帰らせたいらしい(あ痛)。彼は桃花さんを前にカチンコチンの直立不動になって、得意のVIP対応パターンに入ったらしい。縦割り社会に生きる彼としては、当然といえば当然か。でも、日本に行ったセイハ、メサらが一気に打ち解けてその日の夕方には、みんなでルートを作ったりして楽しんで聞いた。

遅くなってスムロンから携帯メールが届いた。ご機嫌な写真が貼付されていた。「ハロー、日本からきた友達を紹介する、これモモカ!」「う、コイツめ」

(続く)